

## 富士山を眺めてちょっとロングなコースを歩こう 杓子山～石割山

実施日 2016年5月22日(日)  
 天候 快晴  
 リーダー 濱田 優美子  
 参加者 白石恵美子、石附智江、伊藤久雄、石原勝正、濱田優美子、渡邊悦子 計6名  
 費用 4,656円(高尾起算)  
 タイム 下吉田(9:05~9:20)鳥居地峠(9:30~)高座山(10:15~10:20)大ザス峠(10:50~10:55)杓子山(11:30~12:05)昼食子ノ神(12:25~12:30)立ノ塚峠(13:15~13:25)二十曲峠(14:10~14:20)石割山(15:03~15:20)石割神社(15:30~15:35)平野(16:30)

雲一つない快晴。富士急に乘ると、間もなく大きな富士が視界に飛び込む。今日のよき山行を占うかのような景色だ。鳥居地峠到着後即出発。帰りの高速バスに乗るためには、今日のはのろのろしては行かない。歩き出すこと数分。「こっちはじゃない?」の声に振り返ると、高座山への登山口を通り過ぎていた。これでは一流のリーダーにはなれないぞと思いつつ、登り始める。



間もなく視界が開け、富士が見える。皆、足を止め写真撮影。帰りの時間が気になるリーダーは、そんなことは気にせず、さっ

さと先へ進むが、道はどんどん急になってくる。足場のない砂利の道は、ロープがなければとてもでないが登りきれない。全身の力を振り絞り、足がずり落ちる前に次の足を出し、また次の足を出し登る。ペースが速かろうがなかろうが、のんびり登っていても、ずり落ちてしまう。視界も利き、風も

通るルートではあったが、誰も景色のことなど言っていない。大汗をかき、手も足もがくがくになりやっと高座山についた。「これからあと6時間だよ。」とぞっとするような話をしながら、次の登りにかかる。やっと登りやすくなり、杓子山に到着。杓子山



の頂上にはベンチがあり、富士の雄大な姿が眺められた。街は日中気温が上昇しているはずだったが、1600mの山頂は、さわやかな5月の風が吹いていた。昼食をとり、疲れを癒す。杓子山からは、ところどころつつじが咲き、新緑と相まって、美しい道となる。「これからまだ5時間歩く。



細かいアップダウンが何度もある」などと、皆の心は、新緑よりも、コースの難度に向いているようだったが、ペースは思いのほか快調で、コースタイムよりかなり速く歩いていた。「二十曲峠に行くんじゃないの?」とまた後ろから声がかかった。見ると、二十曲峠の分岐を見落とし、コースを外れかかっていた。地図を見ると、確かに右前方に下ってしまう道があった。これでは二流どころか、三流リーダーだと、予習の甘さを反省しながら歩くと、またもや分岐。つい、自分で判断しきれず、後続を振り返る。これでは、三流どころかリーダー失格。映る価値なしだ。石割山への最後の登りを何とかクリアし、本日の登りはこれで終了。皆一様にほっとする。



富士はだいぶかすんできており、山頂は木陰がなくじりじりと日差しが強かった。のんびりしたい気持ちを抑え、下山開始。富士見平から400段の階段を嫌うと、道はもう林道となっていた。平野には、予定より約1時間早く到着し、バスには楽勝、と思いきや、電話をしてみると、1名を除きいっぱい。バスだバスだと大騒ぎしながら一日歩き、結局一杯という情けない事実も、リーダーの経験不足からくる読み間違い?としょぼんとしていたが、誰もそれを非難するでもなかった。今回は天候に恵まれ、良い夏山訓練山行となったようだった。

一から十まで情けないリーダーでしたが、皆さんの協力に支えられ、無事に山行を終えることができました。失格リーダー、これから精進して参りますので、これに懲りず、またご一緒お願いします。ご協力ありがとうございました。

(記・濱田 優美子)

(写真提供・伊藤久雄・石原勝正)